

## 強いチーム創りの着眼点

### こころみ学園から学ぶこと

先日、栃木県足利市にある『こころみ学園』を訪ねてきた。きっかけは、当社で定期的で開催しているワインの会向けのワインを『こころみ学園』から購入したことだ。こころみ学園は障害者の施設でココ・ファームというワイナリーを営んでおり、今年開催された北海道洞爺湖サミットでも使用されたことから、ワインの品質は折り紙つきである。

こころみ学園は1958年に川田昇氏が、特殊学級の子どもたちの訓練と働く場を作り出すために、この子どもたちと共に山の開拓を始めたのが発端である。当時、特殊学級の生徒たちは卒業しても就職先がなかったため、公的な助成金も受けず、賛同する先生たちと共にバラックに寝起きし、無報酬でこの学園を創設した。

こころみ学園を開くにあたって目標としたことは、

#### 1、職員と子どもたちのあいだで差をつけない

職員は子どもたちの食べるもの、飲むのも以外は口にしない。子どもたちより、よいと思われる宿舎には住まない。差のつくような服装はしない。

#### 2、自然の中での質素な生活を大切にする

**ひもじさにも耐えたあとの、食事のうまさ。暑さ寒さに耐えたあとの、涼しさと暖かさ。疲れに耐えたあとの、休息の喜び。眠さに耐えたあとの、眠る喜び。**これらを山の中での作業と生活を通じて、体で味わわせる。

ともすれば、豊かさの中で耐えられることも耐えず、できることもしないで、その力を衰えさせてしまっている子どもたちに、耐える力と本当の生きる喜びを取り戻させたい。

#### 3、労働を大切にする

**働くことは物をつくるだけではなく、人の心をもつくる。**

訓練されないまま成人になってしまった重度の知的障害者や、治療の困難な自閉症を含む情緒障害者たちでも、変化に富んだ山の斜面で体をうごかして働いているうちに、情緒を安定させ、問題行動を解消し、意欲的に仕事に取り組むようになり、従来考えられていたよりもはるかに大きな能力を発揮することができる。

この教育を大切にしていきたい。

(山の学園はワイナリー：川田昇著 より抜粋)

とのことで、一言一句が胸を打つ。

『差をつけない』『耐えたあとの喜び』『労働が人の心をつくる』のどれもが分かっているはいたものの、我々がないがしろにしてきたことではないだろうか。

ところで、彼らが従事している仕事は、全て単純作業である。ワインの瓶を45度ずつ回しながら澱を瓶の口に集めていくルミュアージュという作業や、美味しい葡萄を狙って降下してくるカラスを威嚇する缶カラたたき、ワインの瓶詰工程で行う品質チェックは、我々健常者はすぐに飽きてしまう単純作業の繰り返しだ。しかし、こころみ学園の人たちはみんな、その単純作業に誇りを持って働いているのだ。最高品質のワインをつくるために。

彼らを目の当たりにすると、我々の仕事へ取り組む姿勢は、彼らの足元にも及ばないと実感する。

生きることや仕事の尊厳を教えてもらいに、こころみ学園を尋ねてみてはいかがだろうか。

株式会社アッシュ・マネジメント・コンサルティング  
代表パートナー 平堀 剛